

<知的・自閉症・情緒障害教育>

特別支援学校における社会的能力を高める工夫

— 生活単元学習における「SEL－8S学習プログラム」の活用 —

沖縄県立大平特別支援学校教諭 漢 那 武 司

I テーマ設定の理由

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章総則第1節教育目標の3に「小学部及び中学部を通じ、児童及び生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うこと」とある。各学校において基本的な生活習慣の形成、自己指導能力などを身につけ、将来の自立に向けた社会生活に必要な能力「社会生活能力」の向上を目指していくことが重要である。

沖縄県立大平特別支援学校（以下「本校」とする）は知的障害を主とする特別支援学校で、小学部、中学部、高等部の児童生徒278名が在籍し、一貫した教育が行われている。本校の教育目標は「児童生徒が障害等による学習上又は生活上の困難を克服し、自立を図るために実際の生活で活用できる基本的知識・技能・態度を身につけさせ、社会参加できる人間を育成する」である。また平成28年度の重点目標の一つに「社会参加に必要な基本的な生活習慣を形成し、社会生活能力を育成するため、各教科等を合わせた指導を主とした教育課程を編成する」としている。

この重点目標を踏まえて、中学部では各教科等を合わせた指導の「生活単元学習」の指導の重点を「生活に密着した身近な課題に、積極的に取り組む態度を養う」、「多種多様な経験を通して、社会生活に適応できる基本的な知識と技能及び態度を身につける」とし、「社会生活能力」の向上を目指している。

この2つの指導の重点を「年間指導計画」「個別の指導計画」に取り入れ、各単元に生徒個々の実態に合わせた目標を設定し指導を行うことによって集団行動やルール及びマナーを身につけることを目指している。さらに各教科や自立活動等と関連づけ、全職員で共通理解のもと生徒の実態や発達段階に応じて計画的・段階的に指導することによって、より高い効果が得られると考える。

社会性（対人関係）に関するスキル・態度・価値観を身につける学習プログラムにSEL（Social and Emotional Learning）がある。SELとは心理教育プログラムの総称で、その中でも小泉令三（2011）が開発したSEL－8S学習プログラム（Social and Emotional Learning of 8 Abilities at the school）は、「社会的能力」を日本の教育事情に合わせて効果的に育成できるように工夫した学習プログラムである。

また、小泉（2011）は「日常生活の中で人との関わり方が変化し、社会性を身につける体験の機会が減っている。そのため、学校において社会的能力を教える必要がある」と述べている。

「SEL－8S学習プログラム」は小学校編、中学校編の2種類が開発され、それぞれの発達段階に合わせて学習プログラムが作成されており、いくつかの項目で効果があつたと報告されている（香川・小泉2006、宮原・小泉2009、井本・小泉2015）。また、小泉は学校教育の場面での学習を念頭におき、系統的に学習プログラムを作成している。指導方法については、状況の説明や話を具体的に理解しやすいように紙芝居やゲーム、ロールプレイなど体験的に行う学習内容が数多くあり、特別支援学校に在籍する生徒においても、生徒の実態に応じて活用することができ、社会的能力の育成に効果が得られると期待される。

また、「基礎的社会的能力」は「新版S－M社会生活能力検査」の項目の「意志交換」、「集団参加」、「自己統制」と深く関わっており、検査結果を参考にして生徒個々の実態に応じた学習プログラムを作成し、両方を関連づけて指導することによって、「社会的能力」の育成に高い効果が得られると期待される。

そこで、本研究では本校中学部一般学級の生徒6名を対象に、「新版S－M社会生活能力検査」と「個別の教育支援計画」を基に生徒の実態把握を行い、生徒個々に適切な目標を設定し、より効果的に指導できるのではないか、また、「SEL－8S学習プログラム」と「生活単元学習の指導計画」を関連づけた授業を定期的・段階的に行うことによって学習内容が定着・発展し「社会的能力」を高めることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

- 1 「新版S－M社会生活能力検査」と「個別的教育支援計画」を基に生徒の実態や必要な課題を把握し、単元ごとに生徒個々に適切な個人目標を設定することによって、より効果的に指導することができるであろう。
- 2 「SEL－8S学習プログラム」を「生活単元学習の年間指導計画」と関連づけて、また、生徒の実態に応じて内容を工夫・改善し、定期的・段階的にSEL－8S学習プログラムを取り入れた授業を行うことによって学習内容が定着・発展し、「社会的能力」を高めることができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 「社会生活能力」と「社会的能力」について

(1) 「社会生活能力」

『新版S－M社会生活能力検査』の基となっている「ヴァインランド社会的成熟尺度」の開発者であるドル(Doll, E. A)は、児童が自分自身の生活を処理し、やがて成人として独立にいたるいろいろな活動に参加する能力の発達を「社会成熟」といい、その能力のことを「社会生活能力」と述べている。

(2) 「社会的能力」

SEL－8S関連では、「社会的能力」を「適切な自己・他者・状況認知をもとに、自己の情動と行動をコントロールして、周囲の人々や集団との良好な関係や関わりを持つ力」と定義し、8つ(8S)に分類されている。その中の①から⑤までの領域を「基礎的社会的能力」、⑥から⑧までの領域を「応用的社会的能力」という。「社会生活能力」の④意志交換、⑤集団参加、⑥自己統制と「基礎的社会的能力」は、自己と他者・集団との関わりなど対人関係において基礎となる能力であり、相互に深く関連していると考える(図1)。なお、「基礎的社会的能力」については図2に示す。

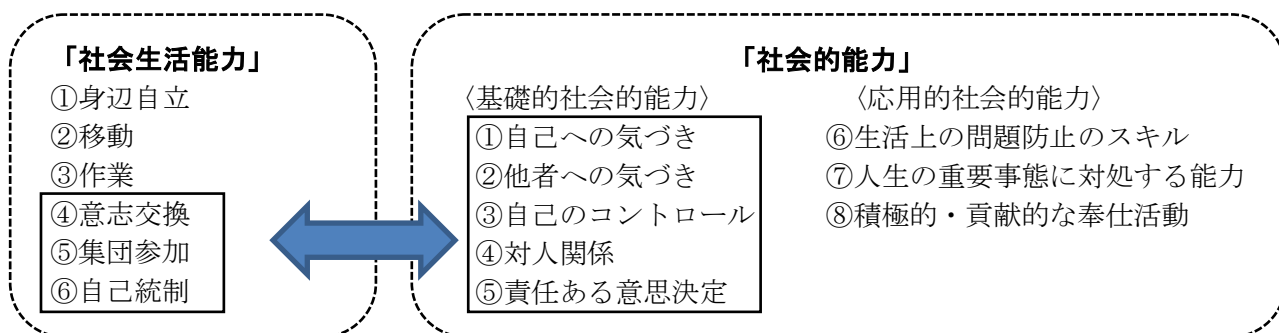


図1 「社会生活能力」と「社会的能力」の関連性

- | |
|---|
| ①「自己への気づき」……自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力。 |
| ②「他者への気づき」……他者の感情を理解し、他者の立場に立つことができると共に、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力。 |
| ③「自己のコントロール」…物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力。 |
| ④「対人関係」……周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き、維持する力。 |
| ⑤「責任ある意思決定」……関連するすべての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う。 |

図2 5つの「基礎的社会的能力」

2 生徒の実態把握

(1) 『新版 S－M社会生活能力検査』

『S－M社会生活能力検査』を基に、今日の社会生活状況に合わせて新しく作成された検査。

適用は1歳～13歳（ただし生活能力遅滞者では年齢以上でも可能）で、社会生活能力を測定するために、日常生活のなかで容易に観察ができ、しかもそれぞれの発達段階の社会生活能力を代表する130の生活行動項目で構成されている。また、それらにはⅠ～Ⅶの発達段階指標がつけられている。①身辺自立（SH）、②移動（L）、③作業（O）、④意志交換（C）、⑤集団参加（S）、⑥自己統制（SD）の6領域に分類され、領域別の社会生活年齢（SA）を出すことができる。

なお、2016年4月に『S－M社会生活能力検査 第3版』が出版され、『新版 S－M社会生活能力検査』の発売が中止になったが、本校では5月の段階で『新版 S－M社会生活能力検査』を使用して検査を行っており、本研究では、『新版 S－M社会生活能力検査』を使用していることとした。

(2) 「個別の教育支援計画」

特別支援学校学習指導要領の第1章第2節第4の2（14）に「家庭及び地域や医療、福祉、保健、労働等の業務を行う機関との連携を図り、長期的な視点で児童又は生徒への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成すること」とある。

本校中学部では家庭調査表・前担任からの引き継ぎ、入学前の保護者面談を基に生徒の「個別の教育支援計画」を作成し、保護者と確認する。その後、1学期終了時に保護者と内容を再確認する。

(3) 「SEL－8S学習プログラム」

8つの「社会的能力」の育成を目指した特定の学習プログラムである。その中の「基礎的社会的能力」を育てるために5つの学習領域を構成し、それぞれの学習領域ごとに小学校は低・中・高学年別、中学校は学年ごとに指導計画を作成する。本研究では、生徒の発達段階を考慮して、小学校の学習プログラムを使用した（表1）。また、各学習領域とそれに関わる基礎的社会的能力との関わりを表2に示す。

表1 小学校の学習プログラム （低）低学年 （中）中学年 （高）高学年

学習領域	指導計画	主な学習内容
基本的な生活習慣	低	1 あいさつ 友達や先生へのあいさつの大切さを知る。
		2 生活リズム 学校でのチャイムの大切さを知り、チャイムに従う。
		3 整理整頓 持ち物に記名すること、整理整頓の大切さを知る。
		4 食生活 嫌いな食べ物を減らす目標を立て、努力を始める。
	中	5 あいさつ 家庭や地域社会でもあいさつが大切であることを知る。
		6 生活リズム 自分の就寝、起床、朝食の問題点の有無と内容に気づく。
		7 整理整頓 忘れ物をしないための改善策を実行できる。
	高	8 あいさつ あいさつの改善点を実行に移そうとする努力を始める。
		9 金銭管理 適切な金銭管理と使用方法の実行意欲が高まる。
自己・他者への気づき、聞く	低	1 自己の感情理解 適切な怒りの表出方法（適切な表現）があることを知る。
		2 感情理解 感情の違いによって、体の様子や表情が異なることを知る。
	中	3 自己の感情理解 感情の適切な表現方法（言語化、話し方の工夫）を選択できる。
		4 他者理解 話の内容を理解するための正しい聞き方（姿勢、視線）を知る。
	高	5 他者理解 不明な点があるときは「質問のポイント」を踏まえて質問できる。
		6 他者の感情理解 相手の感情を適切に理解することができる。
伝える	低	1 感情伝達 自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを知る。
		2 意思伝達 自分の意志を表すための「はい」「いいえ」「わからない」を知る。
	中	3 感情伝達 相手を賞賛したり認めたりすることの大切さを知る。
		4 意思伝達 「頼み方のポイント」（明確化・理由・感謝の言葉）を知る。
		5 意思伝達 誘い等に対して承認や断りを明確に伝えることの重要性に気づく。
	高	6 意思伝達 不当な要求への明確な断り方の言語・非言語スキルを身につける。

関係作り	低	1 関係開始	仲間に声をかけるときのポイントを身につける。
		2 協力関係	積極的な対人関係を築くことへの意欲を高める。
	中	3 自己制御	怒りなどを感じた時、すぐに手や足を出すことの危険性に気づく。
		4 協力関係	意見が違っても、お互いに協力していこうとする意欲を高める。
	高	5 問題解決	トラブルは回避するのではなく、解決が重要であることに気づく。
		6 自己制御	自分に合った気を落ち着かせるスキルを身につける。
ストレス マネジ メント	低	1 ストレス認知	うれしさ、楽しさ、心配、イライラの感情があることに気づく。
	中	2 ストレス認知	イライラを解消する方法があることを知り、自分で試してみる。
		3 ストレス対処	自分に合ったストレス対処法を見つけることができる。
	高	4 ストレス対処	リラクゼーション法のやり方を身につける。
		5 ストレス対処	自分に適したストレス対処法を選択し実行への動機づけを高める。

表2 各学習領域と基礎的社会的能力との関わり

	学習領域 社会的能力	基本的生活習慣	自己・他者への 気づき	伝える	関係作り	ストレスマネジ メント
基礎 的 社 会 的 能 力	自己への気づき		○			○
	他者への気づき		○			
	自己のコントロール	○		○	○	○
	対人関係	○	○	○	○	
	責任ある意思決定			○		

3 「生活単元学習」及び「SEL－8S学習プログラム」の内容の検討

1学期の「生活単元学習」の指導計画（表3）の各単元の内容に合わせて、生徒の発達段階に応じて表1で示した小学校の学習プログラムの指導計画を精選・改善して取り入れる。その際、効果的に学習内容の定着化を図るため、1つの単元に複数の基礎的社会的能力を関連づけて学習指導案を作成する。また、指導内容を本校の生徒がわかりやすいようにし、生徒個々の体験や家庭・学校での目標などを取り入れたりするなど、生徒の実態に応じた指導・支援等を行う。

表3 「生活単元学習」の1学期の指導計画

1 学年 生活単元学習				
	単元名	指導目標	指導内容	備考
1 学 期	①新しい学校、学級	①新しい学校や学部の雰囲気慣れ、新しい仲間と仲良くする。	①自分の長所と短所を知り課題を引き出す。	入学式
	②目標を立てよう	②個人目標を立てることができる。	②1学期の目標を考える。	
	③図書室の利用	③図書室の利用方法や約束を学ぶ。	③図書室利用のきまりを学ぶ。	図書室
	④プール清掃	④協力してプール清掃ができる。	④担当の清掃場所を丁寧に清掃する。	プール
	⑤母の日、父の日	⑤母、父に感謝の気持ちを持つ。	⑤母・父へ日頃の感謝の気持ちを形にする。	母の日 父の日
	⑥もうすぐ夏休み	⑥夏休みの過ごし方を学習する。	⑥夏休みのしおりをみんなで読み合わせる。	終業式
年 間 指 導	①買い物学習	①集団行動や校外でのルールやマナーを身につける。	①公共施設の利用方法や金銭の扱い方を練習する。	お金 財布
	②学年集会	②精勤感を持ち、協力して進める。	②行事の計画・進行を行う。	月行事
	③お楽しみ会	③お楽しみ会の計画に取組む。	③みんなで協力して準備する。	計画

Ⅲ 研究の実際

1 対象生徒の実態把握（新版S－M社会生活能力検査・個別の教育支援計画）

(1) 「新版S－M社会生活能力検査」

4月末に対象生徒6名の「新版S－M社会生活能力検査」を実施した（表4）。生徒個々のSA（社会生活年齢）と「SEL－8S学習プログラム」と関連のある「領域別社会生活年齢」（C、S、SD）を比較すると、4名の生徒が「自己統制」（SD）において低い数値を示した。また、「意志交換」（C）においては3名、「社会参加」（S）においては、2名の生徒が低い数値を示した。

「意志交換」（C）は主に基本的社会的能力の（自己への気づき）（他者への気づき）（対人関係）と関連づけて指導する。「社会参加」（S）は、「対人関係」「自己のコントロール」と関連づけて指導する。「自己統制」（SD）は「自己のコントロール」「責任ある意思決定」と関連づけて指導する。

「領域別社会生活年齢」の検査結果と「SEL－8S学習プログラム」と関連づけて指導することによって、より効果的に指導できると考える。

表4 新版S－M 社会生活能力検査結果

	氏名	新版S－M 社会生活能力検査結果								
		CA	SQ ※1	SA	領域別社会生活年齢					
					SH	L	O	C	S	SD
1	A	12-8	38	4-9	5-11	3-9	5-10	3-9	4-9	4-3
2	B	12-5	65	8-1	7-8	6-6	6-7	10-9	10-2	7-10
3	C	12-1	41	5-0	6-6	2-11	5-10	5-3	4-9	4-3
4	D	13-0	62	8-1	7-8	5-7	8-0	9-0	8-7	10-0
5	E	12-7	37	4-8	5-11	3-9	4-5	3-9	3-7	6-4
6	F	12-3	35	4-4	5-0	2-11	5-1	4-3	4-9	2-9

CA：暦年齢 SQ：社会生活指数 SA：社会生活年齢 SH：身辺自立 L：移動

O：作業 C：意志交換 S：社会参加 SD：自己統制

※1 SQ（社会生活指数）＝ SA（社会生活年齢）÷ CA（暦年齢）×100

(2) 「個別の教育支援計画」

5月上旬の家庭訪問で保護者と内容を確認した個別の教育支援計画の要点をまとめた一覧表が表5である。ほとんどの生徒が「はっきりとした言葉で話す」「恥ずかしがらないで話す」「相手に伝わるように話す」など、コミュニケーション能力の向上を目標にしている。これは主に基礎的社会的能力の「自己のコントロール」・「対人関係」と関連づけて指導すると効果があると考えられる。

また、計画的な行動（日程や時間を考えて行動する）や自己抑制（気持ちをコントロールする）を目標にしている生徒については「自己コントロール」や「責任ある意思決定」と関連づけて指導すると効果があると考えられる。

表5 個別の教育支援計画の目標および手立て（抜粋）

	氏名	個別の教育支援計画	
		目標	手立て
1	A	【保護者の願い】 ・何でも自分でできるようにする。 ・国語・算数を学習させてほしい。 【個人目標】 ・自分の気持ちを伝える。 ・読み書き・音読ができるようにする。	・朝の活動の流れを黒板に貼り、自分で見て行動ができるようにする。 ・プリントを使って文章の読み書き、絵本の音読ができるようにする。 ・朝の会や教科等で発表する機会を多くする。 ・学校でよく使う言葉の読み取りや模写をする。

		【行動面等での実態】 ・教室やその場に居たくないときは「トイレに行く」と言う。	・苦手なこと（大きな音）を出さないようにする。 ・授業に飽きないよう、いろいろな教材の使用や体験的な授業を行い、興味関心を持たせる。
2	B	【保護者の願い】 ・自分で時間を決めて行動できる。 【個人目標】 ・集団の前で堂々と発表できる。 ・人と適切な接し方ができる。 【行動面等での実態】 ・授業中に姿勢が崩れる。	・時間を確認しながら行動できるようにする。 ・教師や生徒同士で話いたり、発表したりする機会を増やす。 ・「プライベートゾーン」や「パーソナルセキュリティ」の学習をする（プレゼンテーション）。 ・「正座」の姿勢のポイントを継続して指導する。（つま先・膝・背中・腕・顔・目の位置）

2 「SEL－8S学習プログラム」と関連づけた、「生活単元学習」の指導計画及び指導案の作成

「生活単元学習」の1学期の指導計画の各単元に小学校の学習プログラムから生徒の実態を考慮して精選した指導計画を挿入し、さらに両方の学習内容を関連づけるよう工夫・改善した全5回の指導計画を作成した（表6）。また、各単元に複数の基礎的社会的能力の要素を取り入れ、全5回の授業が単独の授業ではなく、段階的に関連づけて指導することによって、より効果的に基礎的社会的能力の育成ができるよう工夫した。

表6 指導計画（全5回）

単元名 「題材名」	SEL－8S 基礎的社会的能力	指導内容	指導目標
新しい学級 「自己紹介」	・自己のコントロール ・対人関係	・自己紹介をする（話す・聞く・書く）。 ・生活習慣を育てる（挨拶・姿勢・時間を意識して参加する）。	・学校生活の基礎（授業の開始・終了時間、挨拶等）を通して、授業への意識づけ、及び話す態度、聞く態度を身につける。
学級活動 「いろいろな気持ち」 （検証授業1）	・自己への気づき ・他者への気づき ・対人関係	・他者の感情（喜・怒・驚・悲）を読み取る（表情の写真）。 ・自己の気持ちを伝える。 ・話す・読む（発表する）。 ・図形に関する学習をする（福笑い）。	・いろいろな感情を表す言葉と表情・仕草等を学習し、表現することにより、感情に関する理解を深め、自己や他者の感情を理解できるようにする。
母の日・父の日 「自分の気持ち ・相手の気持ち」	・自己のコントロール ・対人関係 ・責任ある意思決定	・感謝の気持ちを伝える。 ・イライラした時にどうするかを考える。 ・「心の信号機」…気持ちの状態を「信号機」に例えて説明する。 ・他者との関わり方を学習する（ロールプレイ）。	・いろいろな気持ちを相手に伝えることができるようにする。 ・自己の感情を理解し、落ち着いて話すことができるようにする。
学年集会 「協力しよう」	・他者への気づき ・自己のコントロール ・対人関係	・今月の行事計画を作成する。 ・仲間と協力して集会を進める。 ・困っている相手へ積極的に声かけをする。	・相手が困っている時、どのような声かけが良いか、また自分から声かけすることの大切さを理解することができる。
もうすぐ夏休み 「夏休みに向けて」 （検証授業2）	・自己への気づき ・他者への気づき ・自己のコントロール ・対人関係 ・責任ある意思決定	・夏休みに向けての決まりやルールを学習する。 ・気持ちを伝える。 ・協力する心を学ぶ。 ・集団との関わり方を学習する。 ・場面設定時の感情の選択をする。	・今までの学習の復習をする。 ・夏休みや学校でのいろいろな場面の対処法を学習する。 ・生徒個々の課題に関することを理解することができる。

検証授業 1

(1) 題材名「いろいろな気持ち」

(2) 授業仮説

- ① 授業で使用したイラストやカードなどを、掲示したり本授業以外でも活用することによって、生徒が授業内容をより深く理解することができるであろう。
- ② 「個別の教育支援計画」と「新版S－M社会生活能力検査」を基に生徒の実態を把握し、生徒の実態に応じて内容を工夫した「SEL－8S学習プログラム」を取り入れた授業を定期的に行うことによって、「社会的能力」を高めることができるであろう。

(3) 指導観

自己紹介用の定型文の表を使い、再確認を行いながら、生徒が発表できるように支援する。

読み書きが得意な生徒、ひらがなが書ける生徒、ひらがなを模写して書くことができる生徒など、実態に応じ、授業の資料などに読みがなやイラストを使用し、生徒が理解しやすいように工夫する(図3・4)。また、「福笑い」を取り入れるなど(図5)、授業の流れに変化をつけ、生徒が授業に飽きずに興味関心を持って最後まで授業に参加できるように工夫する。



図3 生徒の記入用紙(文字あり)



図4 生徒の記入用紙(文字なし)



図5 「福笑い」

(4) 検証授業1の結果と考察

授業仮説①については、4つの感情の学習をデジタル教材(プレゼンテーション)やアナログ教材(福笑い)など、いろいろな教材を用いて指導することによって、生徒が飽きずに興味を持って最後まで授業に参加することができた。また、授業で使用したイラストや文字などを次回の授業までの2週間、教室の壁や廊下に掲示し、学習内容の定着化を図った。

前回の授業の振り返りをしたところ、質問に積極的に答える生徒が多くいた。これは、前回の授業で興味を持って学習した内容を一定期間掲示することにより、生徒がそれを繰り返し見ることで定着化が進んだのではないかと、また、掲示されているイラストや言葉を他の授業でも使用することによって、学習内容に触れる機会が増え、より深く理解することができたのではないかと考える。

授業仮説②については、「新版S－M社会生活能力検査」及び「個別の教育支援計画」を参考にしながら、生徒個々の目標・支援等を設定することができ、「SEL－8S学習プログラム」の内容を生徒の実態に合わせて工夫・改善して作成することができた。

社会的能力の向上については引き続き「SEL－8S学習プログラム」を取り入れた指導を定期的に行うことによって「社会的能力」を高めることができるであろうと考える。

4 検証授業2

(1) 題材名「夏休みに向けて」

(2) 授業仮説

「SEL－8S学習プログラム」を生徒の実態に応じて、内容・項目を工夫・改善する事により、生徒が興味関心を持って授業に取り組み、定期的に「SEL－8S学習プログラム」を取り入れた授業を行うことによって、「社会的能力」を高めることができるであろう。

(3) 指導観

今回の授業は、これまで学習してきた基礎的社会的能力「自己への気づき」「他者への気づき」「責任ある意思決定」「対人関係」を学習する。また、対象となるクラスの生徒は、休日等においても、外出をしたり地域の人と接したりする機会が多く、夏休みに向けていろいろなマナーやルールなどを学習する必要があると考える。

そこで、今回の授業では、これまでの復習を「夏休みに向けて」という題材のもと、ゲーム形式で夏休みに関連する場面設定を作成し、生徒がいろいろな問題に自己で判断して解決する力を育て

る。場面設定に使用する題材は、これまでの授業で使ったものの他に、夏休みに向けて必要なことや、担任から生徒個々の新しく見えてきた課題等を聞き取り、それぞれに必要な内容を取り入れるなど、生徒個々に合わせた場面設定を作成した。また、生徒が興味関心を持つよう、ゲーム形式（すごろくゲーム）で授業を進めていき、生徒が最後まで集中して授業に参加できるように工夫する（図6・7・8）。



図6 順番を待つ・話を聞く



図7 個別の問題を解く



図8 コマ（帆船）を進める

(4) 検証授業2の結果と考察

定期的に指導してきた「SEL－8S学習プログラム」の内容を生徒が理解しやすいように、学校や家庭で経験したことや、夏休みに起こりそうな問題など、より生徒個々に応じた具体的な例題を提示することにした。それによって、生徒の興味関心が高まり、集中して授業に参加することができた。また、授業や休み時間に、生徒がこれまで学習してきた教材や言葉を使って会話したり遊んだりする場面が見られるなど、学習内容が定着してきている様子が見えた。

さらに、これまで学習してきた言葉や表現を使って発表するだけでなく、他の言葉や表現を使って発表する場面もあった。生徒が学習した言葉を覚えて発表するだけでなく、場面に応じて自ら考えてどのような対応をすれば良いかを考えることができたのではないかと考える。

IV 研究仮説の検証と考察

1 『新版S－M社会生活能力検査』と『個別的教育支援計画』を基に生徒の実態や必要な課題を把握し、単元ごとに生徒個々に適切な個人目標を設定することによって、より効果的に指導することができるであろう』について

「新版S－M社会生活能力検査」及び「個別的教育支援計画」を基に生徒の実態把握を行い、学習指導案の作成時に再確認を行った。それにより、生徒の実態や課題などがより見えるようになった。また、保護者や担任から課題を聞き取り、目標を設定することができた（表7）。

表7 生徒の実態と個別目標

生徒の実態と個別目標		
氏名	本時に関する生徒の実態	本時の目標
A	・質問に対して簡単な文章で返事ができる。 ・授業中に急に立って歩いたり勝手に水を飲んだりする。	・ルールを守りゲームに参加することができる。 ・教師と一緒に対処方法を考えて発表ができる。 ・最後まで落ち着いて授業に参加することができる。
B	・自分の意見や感想をきちんと相手に伝えることができる。 ・自分の発表が終了したり、課題や作業が終わると姿勢を崩して休む。	・いろいろな場面での対処方法を自分で考えて発表することができる。 ・他の生徒が発表する時、話を聞くことができる。 ・姿勢を正しくして授業に参加することができる。
C	・ひらがな、カタカナの読み書きができる。 ・挨拶をしないうちに次の活動をする。 ・疲れたり、わからないことがあったりすると、途中で飽きてしまう。	・自己の感想や意見を相手に伝わりやすいように発表することができる。 ・時間を考えて参加することができる。 ・興味関心を持って授業に取り組むことができる。

D	・時計をよむことができる。 ・自己の気持ちが良くないと活動を止める。 ・人前に出て元気に発表することができる。	・時間を確認して授業に参加することができる。 ・ルールを守って、授業に参加することができる。 ・話したい内容をまとめて発表することができる。
E	・身辺自立（着替え等）の指導中である。 ・他の人の行動が気になって自分の行動が進まなくなる。 ・他生徒の発表時におしゃべりが多い。	・姿勢や制服の乱れを意識する。 ・周りに気を取られずに、自己の順番を確認しながら参加することができる。 ・他の生徒が発表する時に話を聞くことができる。
F	・授業中や給食時に姿勢が崩れる。 ・話しているときに言葉使いが悪くなる。 ・挨拶を積極的にするのが苦手である。	・良い姿勢を維持しながら最後まで授業に参加する。 ・丁寧な言葉使いを意識して話すことができる。 ・積極的に挨拶や返事ができるようにする。

授業を受ける姿勢や態度、感想や意見の伝え方など、新たな課題等に応じて目標を設定することにより、生徒個々への具体的な支援内容・方法を再検討して教師間で確認することができ、効果的に指導することができた。

2 「『SEL－8S学習プログラム』を『生活単元学習の年間指導計画』と関連づけて、また、生徒の実態に応じて内容を工夫・改善し、定期的・段階的に『SEL－8S学習プログラム』を取り入れた授業を行うことによって学習内容が定着・発展し、『社会的能力』を高めることができるであろう」について

検証授業終了後、「新版S－M社会生活能力検査」を再度実施し、前回の検査結果と比較した（表8）。

生徒Cは、1学期の授業日数65日のうち、出席日数が15日、また全5回の研究授業に参加することができなかったため、検査結果の比較による仮説2の検証は難しいと考え、2回目の検査は実施しなかった。

領域別社会生活年齢を見るとC（意志交換）については5名中4名の生徒の数値が向上した（図9）。向上した質問項目は「電話の対応（挨拶や受け答え）ができる」と「相手の立場を考えて話す事ができる」であった。これはいろいろな場面において、自己や他者の考え方や話し方を繰り返し練習することによって相手に伝える力がついてきたのではないかと考える。S（社会参加）については5名中3名の生徒の数値が向上した（図10）。向上した質問項目は「ごっこ遊びができる」と「学級会で自分の意見を述べられる」「じゃんけんの勝負がわかる」であった。集団や対人関係を築く学習をすることによって相手と関わったり、積極的に発表する力がついてきたのではないかと考える。

SD（自己統制）は5名中2名の生徒の数値が向上した（図11）。向上した質問項目は「1時間くらいなら、1人でも留守番ができる」「少額の買い物なら言われたとおりに買い物ができる」であった。ある選択肢の中から自分で判断して決定するという学習をすることによって、自己の判断で行動する大切さを知り、責任を持って行動する力がついてきているのではないかと考える。生徒Bに関しては、C（意志交換）、S（社会参加）、SD（自己統制）ともに変化が見られなかった。これは、5月の検査結果を見ると、3領域ともSAと比較しても高い数値を示しており、今後、授業をする際、生徒Bの発達段階に応じた個別の指導内容、方法を検討していく必要がある。

また、C・S・SD以外のSH（身辺自立）、L（移動）、O（作業）において、数値の向上が見られた生徒がおり、今後、「SEL－8S学習プログラム」との関連性を検討する必要がある。

以上のことから、「SEL－8S学習プログラム」は生徒の実態に応じて工夫・改善して使用することによって、特別支援学校の生徒にも効果があったと考えられる。また、学校生活の中で、定期的・段階的に指導する事によって、生徒の「社会的能力」が向上するのではないかと考える。

表8 「新版S－M社会生活能力検査」の比較

	氏名	検査月	CA	SQ	SA	領域別社会生活年齢					
						SH	L	O	C	S	SD
1	A	5月	12-8	38	4-9	5-11	3-9	5-10	3-9	4-9	4-3
		7月	12-10	40	5-1	6-6	3-9	6-7	4-3	4-9	5-0

2	B	5月	12-5	65	8-1	7-8	6-6	6-7	10-9	10-2	7-10
		7月	12-7	66	8-4	7-8	7-5	7-4	10-9	10-2	7-10
3	C	5月	12-1	41	5-0	6-6	2-11	5-10	5-3	4-9	4-3
		7月	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	D	5月	13-0	62	8-1	7-8	5-7	8-0	9-0	8-7	10-0
		7月	13-2	72	9-5	10-6	7-5	8-9	9-10	9-4	12-2
5	E	5月	12-7	37	4-8	5-11	3-9	4-5	3-9	3-7	6-4
		7月	12-9	40	5-1	5-11	3-9	5-1	4-9	4-9	6-4
6	F	5月	12-3	35	4-4	5-0	2-11	5-1	4-3	4-9	2-9
		7月	12-5	39	4-10	5-11	2-11	6-7	4-9	5-5	2-9

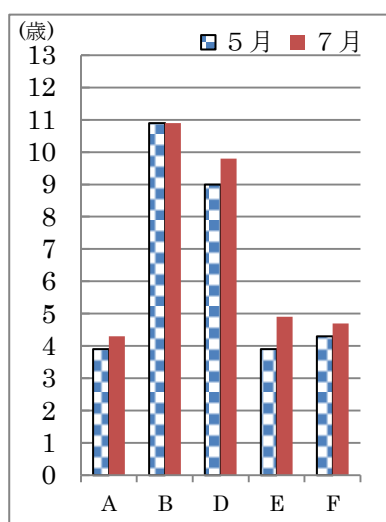


図9 C（意志交換）の比較

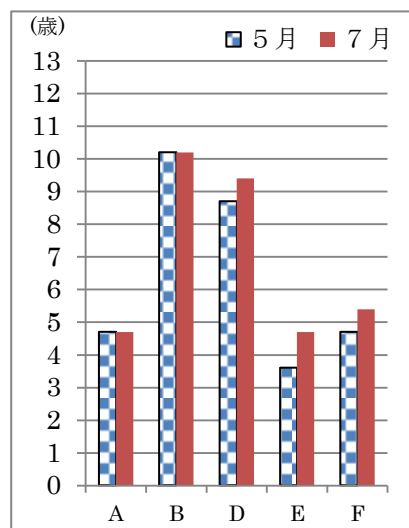


図10 S（社会参加）の比較

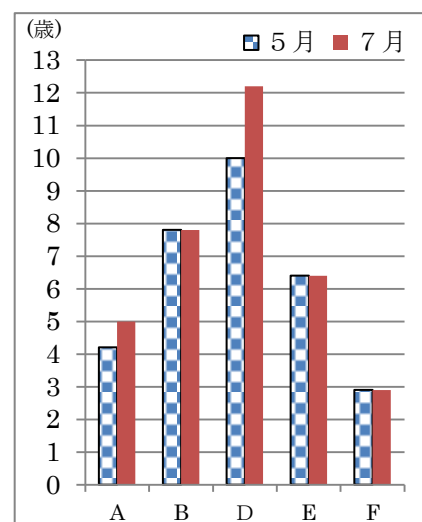


図11 SD（自己統制）の比較

V 成果と課題

1 成果

- (1) 「新版 S－M 社会生活能力検査」と「個別的教育支援計画」を基に生徒の実態を的確に把握し、生徒個々の適切な目標を設定し、より効果的に指導することができた。
- (2) 「SEL－8 S 学習プログラム」を1学期の「生活単元学習の指導計画」の各単元と関連づけ、定期的・段階的に学習ができるよう内容を工夫・改善して学習指導案を作成することができた。
- (3) 作成した学習指導案をプレゼンテーションや紙芝居、寸劇、ゲーム等、毎回いろいろな方法を交えて授業を行うことによって生徒が興味関心を持って参加できるよう工夫し、また、定期的に授業を行うことによって社会的能力の向上に向けて意識を高めることができた。

2 課題

- (1) 特別支援学校の生徒の障害・発達等に対応した「SEL－8 S 学習プログラム」の精選・工夫・改善をする。
- (2) 「生活単元学習」だけでなく、他教科や学校行事等と連携した「SEL－8 S 学習プログラム」の指導を検討する。
- (3) 「基礎的社会的能力」の学年や発達段階を考慮した定期的・段階的な指導の計画及び「応用的社会的能力」の指導を行うための「SEL－8 S 学習プログラム」の内容を検討する。

〈参考文献〉

- 沖縄県教育委員会 2016 『平成 28～30 年度 学校における指導の努力点』
- 井本泰子／小泉令三 2015 「生徒の社会的能力を育成する心理教育プログラム（SEL－8S）の効果的活用」福岡教育大学大学院教職実践専攻年報，5，15-22.
- 小泉令三 2011 『社会性と情動の学習（SEL－8S）の導入と実践』 ミネルヴァ書房
- 小泉令三 2011 『社会性と情動の学習（SEL－8S）の進め方（小学校編）』 ミネルヴァ書房
- 小泉令三 2011 『社会性と情動の学習（SEL－8S）の進め方（中学校編）』 ミネルヴァ書房
- 澤本佳江／菅野敦 2009 「生涯発達かの視点から見る知的障害児・者の社会生活能力の特徴」教育実践研究支援センター
- 宮原紀子／小泉令三 2009 中学校の学校行事と関連づけた社会性と対人関係能力の向上—社会性と情動の学習(SEL)プログラムの活用による試行的実践— 教育実践研究（福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター），17，143-150.
- 文部科学省 2009 『特別支援学校教育要領・学習指導要領』
- 文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』教育出版
- 香川雅博／小泉令三 2006 「小学校中学年における社会性と情動の学習（SEL）プログラムの試行 福岡教育大学紀要第4分冊，55，147-156.
- 朝日学園教育研究所／日本心理適正研究所 1980 『新版 S-M社会生活能力検査 手引』 日本文化科学社

〈参考URL〉

- 沖縄県教育委員会 「教育施策」 <http://www.pref.okinawa.jp/edu/jujitsu/shisaku/index.html>
- 沖縄県総合教育センター <http://www.edu-c.open.ed.jp/>
- 対人関係能力育成プログラム開発（SEL） <https://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/newpage6.html>
- 科学技術振興機構 「犯罪からのこどもの安全」 <http://anzen-kodomo.jp/index.html>
- 文部科学省「特別支援教育」 http://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm